

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

記 入 日 2011 年 2 月 7 日

1. 概 要

実践団体名	中学生防災隊プロジェクトチーム		
連絡先	事務局 間瀬トシ子 電話・FAX 番号 0566-92-1813		
プランタイトル	故郷は僕たちの手で～中学生による地域防災力向上の取り組み		
プランの対象者	中学生	対象とする 災害種別	災害全般

【プランの目的・ここがポイント！】

これまで「大人を対象とした地域防災活動」を「中学生にひろげる」ことを目的としたプランで、中学生が今までなじみの薄かった「防災」をテーマにどれだけ関心を持ち、自ら活動してくれるか？また、自主防災会役員は地域自主防災会の活動に取り込むために、受け入れ環境をどう整えるか？がポイントです。

【プランの概要】

- ① 中学生に、自分たちが住んでいる地域で過去に起きた三河地震など、歴史災害を理解してもらい、防災マインドを養う
- ② 「中学生防災隊」を結成する
- ③ 中学生防災隊は、地域の自主防災会の一員として、防災訓練など防災イベントに参加する
- ④ 安城防災ネットは、中学生向け防災学習テキストを作り、中学生防災隊が活躍するための防災体験講座を開く。また、平常時の活動として「地域防災訓練プログラム」を作る
- ⑤ 受け入れ側の自主防災会は、中学生防災隊が伸びやかに！楽しく！活動できる環境を準備する

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ① 中学生は、大災害から自分の命を守る知識や術を学び、災害を自分ごとと受け止め、自分と家族の命を守れるようになる。地域の役に立っている自信と充実感が持てる。
- ② 自主防災会は、中学生防災隊が地域の防災訓練で活躍することで、住民が防災に関心を持ち防災意識の向上につながる。中学生防災隊は地元で大きな防災力となる。
- ③ 中学生防災隊が地元で活躍することで、住民から感謝の言葉をかけられ、地域のみなさんに顔を覚えてもらい、見守ってもらえる。青少年健全育成にもつながる。

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ ん 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	計画の進め方について ワークショップ	*中学生防災隊プロジェクトの年間プログラム案を作成。 *アドバイザーより活動の進め方についてアドバイスを受ける	*アドバイザー・中学校・防災危機管理課・自主防災会・安城防災ネットが計画の進め方などを検討。 *中学生と共に活動するための課題や解決策を出し話し合う
2010年 5月 ～6月	実際の活動に向けて、協力体制作り。	*中学生防災隊育成プログラムの作成 *中学生防災隊募集のチラシ作成	中学生防災隊プロジェクトチームのスタッフに活動計画の周知と協力体制を確認する
2010年 6月	明祥中学校親子防災講演会開催 中学生防災隊募集開始 体験講座指導者研修	*明祥中学校の授業参観日に合わせ、講演会を開催。 *学校にチラシの配布を依頼する。 *啓発資器材 内部講師	*65年前にこの地で起きた三河地震など過去の災害について学び、親子で防災について話し合ってもらう機会とした。 *講演会の後、防災隊の募集チラシ配布 *防災体験講座での指導法を統一する。
2010年 7月	*ファシリテーター研修 *中学生防災隊再募集 *応募者取り纏め *中学生防災隊結成式・ワークショップ・	*ワークショップの事前研修会 *地区限定について検討会を開く。 *結成式の案内状発送 *当日のプログラムを作る。 *アルファ米の提供依頼。 *語り部要請。 *啓発デモのシナリオ作成	*WSに備え、外部講師より、ファシリテーターの事前研修。 *明祥中学区以外の地区も含め3地区に限定して再募集をした。 *町内会毎に中学生防災隊名簿作成 結成式で自主防会長隊員証を授与、ベストの貸与。 *被災体験を語り部から聴く・非常食試食と配布作業を体験・被災体験を語り部から聴く・防災啓発デモを観る。
2010年 8月	*2会場で、防災体験講座開催 *町内会ごとに防災隊集会を開き正副隊長ほかを選出	*当日のプログラムを作る。 *外部講師を依頼する。 *会員の指導者講習を繰り返し行う。 *資器材の調達	*16日：榎前町防災隊体験講座 内容＝午前 普通救命講習受講 午後 ロープワーク・ある物で防災クラフト・ある物で応急手当法 *21日：根崎・城ヶ入防災隊体験講座 内容＝台車ぶるで地震に強い家、そのほかは、16日午後と同じ
2010年 8月～ 11月	*市総合防災訓練 *東端町防災訓練 *市福祉祭り *南部公民館祭り *町内運動会	*参加者募集 *啓発メニュー選定 *サポーターとの打ち合わせ。	防災体験講座で学んだことを活かし、市内各種イベント会場で、防災啓発活動を行い、地元防災訓練での活動につなげる。
2010年 12月	5日：根崎防災訓練 12日：城ヶ入・榎前2町の防災訓練	・正副隊長が地元自主防災会の防災会議に出席	根崎：防災啓発コーナー開設、非常食炊き出し訓練参加 城ヶ入：避難時の要援護者支援、けが人の救出救護訓練に参加する 榎前：防災隊は、発災型訓練で役割を担う。担当の訓練を終えた後、防災体験コーナーで活動する。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	活動の進め方検討会
実施月日（曜日）	平成22年4月20日(火)
実施場所	安城市明祥中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：木村 玲欧 所属・役職等：富士常葉大学大学院准教授 (防災教育チャレンジプラン アドバイザー)
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間（14:00～15:00）
プログラムのカテゴリ、形式	ワークショップ
活動目的	その他 活動の進め方と、今後の課題 その解決策について話し合う
達成目標	進め方と課題を知り、解決策を見出し、中学生防災隊の育成とプログラム作成に活かす。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① プログラムのたたき台に沿って、問題点・課題を出し、計画内容と進め方について、アドバイスを頂いた。 ② ワークショップに出席した、明祥中学校、安城市防災危機管理課、根崎町自主防災会、安城防災ネット、それぞれの立場で出来ることを出し合った。（中学校は親子防災講演会の開催協力とチラシの配布）進め方などの情報を共有する ③ アドバイザーより今後の進め方について指導を頂いた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	① 中学生防災隊プロジェクトの年間プログラムの案（たたき台） ②WS参加者 アドバイザー：木村玲欧氏、明祥中学校校長と教務主任、市防災危機管理課係長と担当職員、根崎町自主防災会正副会長と自主防災部長、安城防災ネット会長他3名。
参加人数	11人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	つかみ所のない年代で付き合いにくい中学生にどう接したらよいか？また、今までなじみの薄い「防災」に関心を持ってもらうにはどうしたらよいか？それぞれの立場で意見が出され、今後の課題が見えて解決の糸口が見つかった。
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム②】

タイトル	中学生防災隊プロジェクト参加の呼びかけと協力依頼
実施月日（曜日）	5月1日（土）～6月1日（火）
実施場所	根崎町を除く明祥地区の3町内会。南部公民館。明祥地区社会福祉協議会。
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：鳥居 肇 所属・役職等：安城防災ネット会長鳥居 肇
所要時間または「コマ数×単位時間」	
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 は自主防災会に中学生防災隊プロジェクトへの参加を促し、南部公民館、地区社協には理解と協力をお願いする。
達成目標	根崎町を除く明祥中学区の3町内会が、中学生防災隊プロジェクトに参加し中学生防災隊を取り入れる。地域の官・学・民が協力して中学生防災隊の育成を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	防災教育チャレンジプランの趣旨と計画書を持参し ・中学生防災隊育成の重要性を説明、理解と協力を求める。 ・電話で面会予約をして訪問する。 ・地元町内会には、自主防災会が主体となって、地元の中学生防災隊を募集して育成し、地域の防災力として共に活動することの必要性を訴え、プロジェクトへの参加を促す。育成のためのサポートを安城防災ネットが担うことを説明。 ・南部公民館には、明祥地区の中学生防災隊の学びの拠点として利用できるよう受け入れを依頼。（施設利用は有料） ・明祥地区社会福祉協議会には、中学生防災隊の地域福祉防災に関する活動への理解と協力を依頼。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防砂教育チャレンジプランの趣旨と活動計画書
参加人数	3人（安城防災ネット会長・根崎町自主防災会会長・事務局）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	成果：①南部公民館、明祥地区社協、西部地区社協、安城西中学校、安城消防署安城西出張所から協力を得られた。 ②明祥地区根崎自主防災会以外の2自主防災会と西部地区の1自主防災会から中学生防災隊プロジェクト参加の申し出があった。 課題：自主防災会自らが中学生防災隊を育成し、自主防災会の一員として迎え入れる心構えが出来ているか？安城防災ネットは、受け入れの環境作りをどう導くかが課題。
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	明祥中学校親子防災講演会
実施月日（曜日）	平成22年6月14日（月）
実施場所	安城市立 明祥中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：木村 玲欧 所属・役職等：富士常葉大学大学院准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分（14:10～15:10）
プログラムのカテゴリ、形式	講演会
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	親子が防災に関心を持ち、防災を自分ごととして受け止める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 明祥中学校に中学生防災隊の育成について説明し、協力を要請。 ② 中学生防災隊の募集について協力を要請。 ③ 中学生防災隊の募集にあたっては保護者の理解が必要であり、親子の共通理解が必要。親子防災講演会開催を計画。 ④ 講師の選定と講師依頼、学校と講師の日程調整。 ⑤ 中学生防災隊育成に関して協力要請先の行政各種団体に親子防災講演会の案内状を発送。 発送先：東端町内会・城ヶ入町内会・和泉町内会・学校教育課 防災危機管理課・安城市南部公民館・明祥地区社会福祉協議会 ⑥ 当日出席者：安城市危機管理監他3人。南部公民館館長。明祥地区社協1人。城ヶ入町自主防災会長・根崎町自主防災会会長他3人。安城防災ネット会長他7人 安城防災ネット会長他5名。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	保護者への「親子防災講演会」の案内及び会場の設営、必要機器は、明祥中学校で準備。
参加人数	明祥中学校生徒約350人 保護約180人 教職員ほか40人
経費の総額・内訳概要	講師謝礼金30,000円 旅費交通費 20,000円
成果と課題	<p>【成果】親子が同時に、過去に地元で大被害を受けた、三河地震や伊勢湾台風などの災害を例に、自然災害の恐ろしさ、災害への備え、災害時の助け合いなど、防災全般について学び、防災を自分ごととして受け止めることができた。</p> <p>【課題】講演の時間が短過ぎた。もっと聴きたかった。という声が保護者から聞かれた。年間計画が詰まっている学校行事に加えるには、1時間が精一杯であった。講演時間の確保が課題。</p>
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	スタッフのワークショップ
実施月日（曜日）	6月14日（月）
実施場所	根崎町内会集会室
担当者または講師	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者・講師等の区分：アドバイザー 氏 名：木村 玲欧 所属・役職等：富士常葉大学大学院准教授 ・担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：山下 眞志 所属・役職等：安城防災ネット書記
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分（15：30～17：00）
プログラムのカテゴリ、形式	ワークショップ
活動目的	その他 スタッフの顔合わせと、中学生防災隊を受け入れるための環境作り役割分担など、アドバイザーより指導を受けながら話し合う。
達成目標	<p>自主防災会が、「自分たち地域のこと」として、今まで付き合いのなかった中学生を地域の防災活動に引き込むための心構えについて理解し、環境作りに努める</p> <p>中学生防災隊プロジェクトチームの役割分担</p>
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 中学生防災隊プロジェクトについて、スタッフの共通理解を目的に、防災教育チャレンジプランワークショップのppを見る。 ② 中学生防災隊プロジェクトの進め方と受け入れ側である自主防災会の受け入れ環境作りについて話し合う。 ③ 今後進めるについて自主防災会と安城防災ネットの役割分担について話し合う。 ④ アドバイザーより助言を頂く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクター・pcなどのプレゼン機器 ・ 資料：防災教育チャレンジプラン申請書と計画書のコピー ・ 参加者：防災教育CPアドバイザー、根崎町自主防災会4人、城ヶ入町自主防災会2人、安城市防災危機管理課2人、明祥地区社協職員、安城防災ネット6人
参加人数	16人
経費の総額・内訳概要	お茶代：1,920円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>スタッフが目的や進め方を共通理解することができた。 自主防災会と安城防災ネットの役割分担ができた。 自主防災会は中学生防災隊の受け入れ環境作りが必要であることを</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>理解できた。</p> <p>【課題】</p> <p>自主防災会としては、今まで付き合いのない中学生を受け入れるために、どうしたらよいか?不安と悩みを抱えることになり、今後の支援が必要になる。安城防災ネットは、支援する立場で、中学生との付き合い方などしっかり学ぶ必要がある。</p>
成果物	

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	中学生防災隊の募集
実施月日（曜日）	6月14日（月）～随時（2次締め切り7月20日）
実施場所	明祥中学区全域および、安城西中学区の一部
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：中学生防災隊プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 中学生防災隊を募集し、地元自主防災会と共に地域の防災力向上の担い手を募集する。
達成目標	中学生が防災についての知識と啓発方法を学び、地域の自主防災会組織の一員として、地域の防災訓練で啓発活動を行う。 そのために「中学生防災隊」を募集する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 中学生防災隊募集のチラシを作る。 ② 明祥中学校親子防災講演会の後、クラスで募集のチラシを配布 ③ 6/20 応募締め切り日までの応募者が少なかったため、チラシを作り直し、期限を切らず再募集を開始。 ・募集の範囲を隣の学区の一部まで募集範囲を広げる。 ・町内会の回覧板でチラシ回覧。自主防災会役員から呼びかけ。 ④ 7月20日（火）現在の応募者数 根崎町 12人・城ヶ入町4人・榎前町24人 ⑤ その後も随時募集を継続する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ 中学生防災隊募集チラシ ・ 募集に関係した人：明祥中学校、根崎町自主防災会、安城西中学校、榎前町自主防災会、安城西中 PTA 榎前地区、安城防災ネット、 ・ 町内回覧板の活用
参加人数	関係者多数
経費の総額・内訳概要	チラシ用カラーコピー紙：2,508円
成果と課題	【成果】 学校と地域が連携し、募集にかかわった結果、自主的に防災活動を希望する中学生の応募があった。明祥中学区は3年生のみでまとまりがあり、知識と技の理解・応用力がある。 【課題】 明祥中学区は3年生のみであり、高校受験・中学最終学年で部活動など集大成の年でもあり、超多忙な学年であることから、活動の時

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

間と範囲に限られる。安城西中学区の榎前町は、1年生が多く2年生が1年生の3分の1であるため、次年度につなげることができるが、まとめ役としての3年生が必要。募集方法は今後の検討課題である。

3回目修正のチラシ

この事業は、防災教育チャレンジプランの実施及び関係機関の協力を仰いでいます。

『中学生防災隊』

募集人数
榎町の中学生 10人以上
城ヶ入町の中学生 10人以上

明日起こるかもしれない！
同時発生が予想される東海・東南海地震！

あなたのまちでは・・・
大地震発生！そのときに備えて
中学生の力を求めています。

大地震発生！その時・・・
あなたのまちを守る
中学生防災隊に入ませんか？

防災（減災）の基本は・・・
自分と家族の命は自分たちで守る。
地域の人たちの命は地域のみんで守る。

中学生防災隊は・・・
あなたのまちの自主防災組織の一員として・・・
自分と家族の命、そして
地域の人たちの命を守る**団體と術**を
学び、地域の**防災力**になります。
(活動予定は裏をご覧下さい)

2回目修正のチラシ

中学1年生
2年生の方が
多めですが、3年生
も歓迎！
応募
して下さい！

この事業は、内閣府と防災教育チャレンジプラン実行委員会の支援及び河川警察基金の協力を仰いでいます。

主催
『中学生防災隊プロジェクトチーム』
榎町自主防災会 会長 榎澤 正樹
安城防災ネット 会長 鳥居 隆

募集締め切り日: 8月30日(水)
・お申し込み・お問い合わせ先
榎町内会 電話92-7871

中学生防災隊 再募集!

楽しく防災を学びませんか?

榎町自主防災会は、中学生に防災を楽しく学んで頂き、町の防災訓練などで、大人と一緒に活動して頂きたいという『中学生防災隊』を募集し7月24日(土)発表会を行いました。興味も中大変せしい3年生5人の応募がありました。今年生と一緒に1~2年生も、活動して頂きたいという再募集します。安城防災ネットが『楽しい防災課程』を計画しています。ご応募をお待ちしています。

7月4日ワークショップ開催の様子

中学生防災隊 今後の活動予定

いつ	どこで	なにを
8月21日(土)	南部公民館	防災訓練で、大人にも子どもにも楽しく教えられる防災教育が予定。
12月5日(日)	榎町公民館	榎町防災訓練で防災活動を行います。
11月13or14日	南部公民館	【開催中】南部公民館での中学生防災隊ミーティング

中学生防災隊 入隊申込書(申込書は町内会にもあります)

お名前	お名前	お名前	お名前
学年	学年	学年	学年
ご住所	ご住所	ご住所	ご住所
連絡先	電話番号	FAX番号	
お願い	保護者ご同意の上で、お申し込みください。		

成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑥】

タイトル	スタッフの防災体験講座の指導者研修
実施月日（曜日）	6月30日（水） 7月7日（水）
実施場所	安城市総合福祉センター第4会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：清水 喜一 所属・役職等：安城防災ネット 研修部長
所要時間または「コマ数×単位時間」	各2時間（19:00～ 21:00） 2時間 × 2回＝4時間
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 ① 防災体験講座での指導法を統一する。 ② 防災啓発の知識と技のスキルアップ。
達成目標	中学生防災隊に防災啓発の知識と技と心構えを指導し、地域の防災力となる中学生防災隊を育てる。そのための指導力を養う
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 安城防災ネットの会員が、得意分野でお互いに指導しあった。 ② 従来の活動では各自まちまちの手法で指導していたが、防災体験講座を受講する中学生が戸惑わないよう、指導法を統一するために、テキストを作成する。（今後見直しをして、中学生防災隊体験講座のテキストとする）。 ③ 中学生防災隊が活動で使用する防災啓発資器材の在庫確認と補修作業を行う。 ◆ 付き合いが難しいと思われる「中学生の特徴」を理解し主に長所を出し合う。中学生の特徴を踏まえ、言葉かけなどを工夫し防災啓発に関心を持ってもらう。特に信頼を築くために指導力をしっかり身に着ける。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	① 防災啓発講座テキスト案 ② 防災啓発資器材 ③ 防災講座のプログラム案 ◆中学生の特徴 長所・短所の書き出し票
参加人数	述べ受講者数 35人
経費の総額・内訳概要	資器材の補修費用（安城防災ネット資器材費より支出）
成果と課題	【成果】 ① 従来防災啓発メニューの指導方法が、指導者によってまちまちであったが、指導法を統一することで、教えてもらった側のレベルが統一される。 ② 教材用の啓発資器材の整備ができた。 ③ いまどきの中学生の特徴について特に長所を出し合い、中学生が関心のあることや、その理由などを話し合い、付き合いの仕

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>方がわかりかけてきた。今ひと工夫のところまできた。</p> <p>【課題】 指導者もそれぞれ個性があり、中学生との付き合い頻度の濃淡もあることから、防災体験講座までに、個々でどこまで工夫できるか？</p>
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑦】

タイトル	スタッフの「ワークショップファシリテーター講習会」
実施月日（曜日）	平成22年7月20日（火）
実施場所	安城市総合福祉センター第4会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：岡坂 健 所属・役職等：レスキューナウ勤務（当時）
所要時間または「コマ数×単位時間」	（18:30 ～ 21:00）2時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 ・スタッフの事前講習会。ファシリテータ力をつける
達成目標	「中学生防災隊」のワークショップでよりよいファシリテーターを務められるように知識と技を学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>① ワークショップでファシリテーターが果たす役割について講義 ② ファシリテーター役を交代しながら体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">ファシリテーター研修の様子</div> 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	講義で使用する、プロジェクターとスクリーン ワークショップの七つ道具（油性ペンやポストイット・B紙など）
参加人数	安城防災ネット会員21人
経費の総額・内訳概要	講師謝礼金15,000円 旅費交通費10,000円
成果と課題	<p>【成果】特に中学生が参加するWSの場面を想定してワークショップがスムーズに進行できる知識と技を学べた。 【課題】大人相手の体験で学んだだけでは、苦手意識を持っている中学生に対して今回学んだことがどこまで応用できるか？</p>
成果物	

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑧】

タイトル	① 中学生防災隊結成式。②非常食配食体験・非常食試食。 ③防災啓発デモを観る。④三河地震・伊勢湾台風の被災体験を聴く。 ⑤なんでも質問タイム（木村准教授） ⑥ワークショップ
実施月日（曜日）	平成22年7月24日（土）
実施場所	南部公民館 多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：木村 玲欧 所属・役職等：富士常葉大学大学院准教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	6時間（9:00～15:00）
プログラムのカテゴリ、形式	その他 ワークショップ
活動目的	その他 ・中学生防災隊であることの自覚を持って活動できる環境作り。 ・避難所での非常食を体験し、防災啓発デモを観て、過去の被災体験を聴き、ワークショップで考えて、自分たちがやりたいこと、やれること、やることを理解する。（感じ・観て・聴いて・考える）
達成目標	①中学生防災隊隊員証とベストを受け取ることで中学生防災隊である自覚と期待されていることへの責任感も持つ。 ②中学生防災隊と地域自主防災会役員とが顔合わせをし、共に地域の防災力向上のために活動する仲間意識をもつ。 ③安城防災ネットの防災啓発デモを観て、語り部からこの地域で起きた過去の大災害の被災体験を聴き、ワークショップで話し合い、考え、中学生がやることを理解する。今後の活動をイメージする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	① 中学生防災隊結成式 ・各自主防災会長より、「中学生防災隊員証」と中学生防災隊のベスト、IDカード付ホイッスルを受け取る。 ・各自主防災会長・明祥中学校教務主任先生・安城防災ネット会長より激励の言葉を頂く。 ② 模擬避難所の食事場の準備と配膳を体験する。 ③ スタッフと交流しながら非常食を試食をする。 ④ 安城防災ネットの「倒壊家屋の下敷きになった人が人を救出救護する」防災啓発デモを観る。 ④ 「昭和の語り部の会」メンバーより、三河地震と伊勢湾台風の被災体験を聴く。（体験当時小中学生） ⑤ 日頃、質問する機会のない大学の先生に直接質問するタイム ⑦ 「食べて」「聴いて」「観た」ことから被災をイメージして、ワークショップで中学生防災隊ができる事を考えて話し合う。 ⑧ アドバイザーより全体的な助言を受ける ◆ スタッフの振り返り

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン

最 終 報 告 書

<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生防災隊隊員証・中学生防災隊ベスト・ID カード付ホイッスル・テキスト:「安城防災かわらばん」掲載の木村玲欧氏著「過去の災害に学ぶ未来への備え」をまとめた冊子。 ・ プロジェクター・PCなどの機器類 ・ アルファ米個食=防災危機管理課より提供、インスタント味噌汁・缶詰類・菓子類など備蓄品の見本を兼ねる非常食食材 ・ 防災啓発デモ用資器材:なまずくん・テーブル・角材・ダンボール・身近にある物で応急手当の材料:風呂敷・手ぬぐい・ストッキング・ラップ・毛布・粘着テープ・筆記用具など ・ ワークショップ用資材:油性ペンカラー太書き細書き、ポストイット、B紙・クリップ、マグネットなど <p>●アドバイザー、根崎町、城ヶ入町、東端町、榎前町、南部公民館、明祥地区社協、明祥中学校、防災危機管理課、安城防災ネット</p>
<p>参加人数</p>	<p>中学生防災隊:25人 スタッフ:20人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>費用総額:157,472円 会場費:3,350円 講師謝礼金30,000円 旅費交通費20,000円 語り部謝礼金:15,000円(5人×3,000円) ベスト代金:68,639円 名札代:4,515円 IDカード付ホイッスル代金:7,070円 非常食試食用食材費:7,518円 資料印刷費:4,110円 事務用品費:1,785円(ポストイット・B紙・油性ペンなど)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結成式で地元自主防災会会長より隊員証とベストなど必須アイテムを受け取り、地域の防災力と期待されている自覚を持つことができた。 ・ 避難所食事場の準備や世話を体験して、食べて、観て、聴いて、考えて、中学生防災隊としてやれることが多いことを理解した。 ・ 避難所の食事場体験では、積極的に動ける生徒と、指示待ち状態の生徒があり、言葉かけのタイミングが重要であることがわかった。 ・ 中学生防災隊は、ワークショップで、大人の中に入り、自分の意見をしっかり出していた。 <p>◆ 7月29日 中日新聞「街角ニュース」で写真付で掲載された。 ◆ 8月1日発行 安城ホームニュースに写真付で掲載された。</p> <p>【課題】</p> <p>◆ スタッフ振り返り</p> <p>① 運営上準備不足があり最後まで影響した。 ② 中学生防災隊結成式は、セレモニーとして形ができていなかった。 ③ 午後から別の予定で帰る生徒が多かった。中学生にとって午前・午後共の日程では、ほかの活動と重複し無理があるため、今後は半日単位の活動とする。</p> <div data-bbox="815 1563 1177 1599" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">語り部から被災体験を聴く</div> 
<p>成果物</p>	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑨】

タイトル	中学生防災隊防災体験講座（榎前会場）
実施月日（曜日）	平成22年8月16日（月）
実施場所	榎前町公民館ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：中学生防災隊プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前3時間30分（8:30～12:00） 午後3時間（12:00～15:00）
プログラムのカテゴリ、形式	体験学習
活動目的	その他 ① 中学生防災隊が、地域の防災訓練で参加した住民に、防災に関心を持ってもらえるように、防災啓発体験をしながら学ぶ。 ② 今後地域の防災活動するとき関係する、自主防災会役員、地区PTAの役員、地区社協、消防署救急隊・安城防災ネットスタッフと顔の見える関係を作る（交流）
達成目標	中学生防災隊は、災害が発生したときに役立つ防災グッズの作り方や身近にある物で応急手当法など体験し、「防災訓練で住民に防災に関心を持ってもらう活動」ができるようになる。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> ① 受付 ② 午前中は、普通救命講習会（3H）を受講（安城消防署西出張所） ③ 昼食時は、会場を避難所と想定し、避難者役のスタッフに非常食を配る役割を体験する。 ④ 非常食は、西中 PTA 榎前地区の会員が、地元ボランティアの指導で、おにぎりの炊き出しを担当し、豚汁は、地元自主防災会役員が担当する。避難所に支援物資として届いたという想定で、非常食配膳台までに運ぶ。 ⑤ 中学生防災隊は、避難所食事場の世話係りとして、避難者数と防災隊の人数分の机といすを配置して食事場を作る。避難者には準備が出来るまで室外で待つよう伝える。非常食を配る。 ⑥ 避難者役のスタッフと中学生防災隊が、入り混じって交流しながら非常食試食をする。 ⑦ 食事の片付け会場の現状復帰などは、中学生防災隊と避難者役のスタッフが共同で行い速やかに終わる。 ⑧ 午後の部として、防災訓練で訓練参加の住民に教える防災メニューを体験する。体験メニューは地元の防災訓練で訓練に参加した住民に展示したり、教えられるメニューに絞る。 ⑨ 防災メニュー <ul style="list-style-type: none"> ・ ある物で防災グッズづくり： 講師が、被災後の不自由な生活をイメージできるような話をしながら、作り方を説明した後体験する。（大型ゴミ袋でポンチョと防寒着、ゴミ袋と新聞紙で敷物とクッション、新聞紙でスリッパ） ・ ある物で応急手当法： 講師が、災害現場では救急車はすぐ来ない！家族や近隣の人が怪我をしたら自分たちで応急手当をしなければならない現実を伝え

防 災 教 育 ち ゃ れ ン じ ゅ ら ン

最 終 報 告 書

	<p>ながら、身近にある物を工夫して応急手当ができるよう指導する。その後、手当てされる側と手当てする側を交代しながら体験する。（ふろしき、日本手ぬぐい、レジ袋、ラップ、新聞紙、ダンボールなど利用）訓練用三角巾、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けが人の搬送法 講師が、何もいないときの一人搬送法、二人搬送法、多人数での搬送法と、毛布があるときの人数に応じた搬送法を指導し、交代で体験する。住民に教え方を覚える ・ 防災ミニ講話：災害時近隣での助け合い、災害時用援護者の安否確認など中学生防災隊ができる活動について 10 分。 <ul style="list-style-type: none"> ● 榎前町中学生防災隊 第 1 回集会 正副隊長、連絡係の選出、連絡網の確認。8 月 28 日（土）の安城市総合防災訓練参加者募集 ● スタッフの振り返りタイム
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け付け名簿・結成式に欠席した隊員の「中学生防災隊隊員証」と名札、応急手当法テキスト、防災パンフレット、アンケート用紙 ・ ある物で応急手当法用（ふろしき・日本手ぬぐい・ラップ・ストッキング・レジ袋・三角巾・ダンボール・新聞紙） ・ 搬送法用（毛布、バスタオル、棒 2 本、T シャツなど） ・ ある物で防災クラフト用（大型ごみ袋、レジ袋、新聞紙、ダンボール・粘着テープなど） ・ マイトイレ用（みかん箱、バケツ、オイル缶、ごみ袋・新聞紙・レジ袋、タフロープ、洗濯バサミなど） ● スタッフ：榎前町自主防災会役員 9 人、安城西中 PTA 会員 5 人、安城消防署安城西出張所 3 人、西部地区社会福祉協議会 1 人、安城防災ネット 4 人 ふれあい「えのき」2 人
<p>参加人数</p>	<p>中学生防災隊出席者 17 人名 スタッフ数 21 人 救急隊 3 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>非常食体験用お茶代：2,136 円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受付では、2 年生女子が自主的に受付作業をし始め、つられて PTA 役員がサポートするなど、スタートから積極的な姿勢が見られ、ほかの生徒によい影響を与え、最後までよい雰囲気でした。 ・ 午前中は、榎前町内会事務所に AED が設置されたことで、榎前町自主防災会からの要望で普通救命講習会を取り入れた。一人の命を救うための「命の連鎖」を理解し、イザというとき、自信を持って命をつなぐ鎖のひとつになれる自信を持てるようになった。 ・ 会場を避難所と想定して非常食食事場設営と世話係りの体験は、7 月 24 日結成式の非常食配布体験を活かして、食事場設営と非常食の配膳など進めることができた。今後活動を共にする自主防災会の役員や地区社協職員、付き合う機会の少ない消防署救急隊の方とも交流しながら、楽しい非常食試食タイムを過ごすことができた。 <p>避難者役のスタッフは、中学生防災隊が、非常食の会場設営でもたついていても、手出し口出しせず我慢して見守ることができた。このことは、今後自主防災会の活動に中学生防災隊を受け入れる環境作りで重要な「気長に温かい目で見守る」につながり、自主防災会役員側の学びに繋がった。</p>

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ ら ん

最 終 報 告 書

- ・ 午後からの防災啓発体験講座は、地元防災訓練の防災体験コーナーで防災訓練に参加した住民に教えることができるメニューから自分にあったメニューを選び、そのメニューの教え方をしっかり身に着け、防災訓練で指導できる自信を持てるようになった。

●中学生防災隊の集会では、隊員全体で正副隊長を選び、連絡係りは正副隊長が相談して指名し、自分たちのやり方で手際よく決めることができた。連絡網について話し合い決めることができた。安城市総合防災訓練参加希望者は連絡係に伝え、隊長が取りまとめることに決まるなど、実際の活動がスタートできた。

【課題】

●スタッフ振り返りより（自主防役員・西部地区社協・西中 P・安城防災ネット参加）

- ・ 中学生防災隊の応募者 25 人中 17 人の出席で、お盆明けで一部家庭の事情の欠席もあったが、欠席者が多い。友人が都合が悪く休むとつられて休む傾向がある。スタッフ側として、友人関係をいい方向に導くなど工夫が必要。
- ・ 防災隊が、短時間に体験し、防災訓練に参加した住民に展示したり、教えるのは、大変無理があり、数回の体験講習が必要であるが、超多忙な中学生にその時間を作ることは困難である。防災訓練当日安城防災ネットがサポートすることを条件に必要最低限の体験になった。短時間での体験講座に向けて、事前に資料やテキストを配布し、体験内容について理解できるよう、事前の準備が必要であり、今後の課題である。



この会場を避難所の食事場と想定して、非常食配膳体験



災害現場では、身近にある物を工夫して応急手当を行う。ストックングを応用

成果物

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑩】

タイトル	中学生防災隊防災体験講座（南部公民館会場）
実施月日（曜日）	8月21日（土）
実施場所	南部公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：山下 眞志 所属・役職等：安城・暮らしと耐震協議会会長 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：中学生防災対プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間（9：00～12：00）
プログラムのカテゴリ、形式	体験学習
活動目的	その他 中学生防災隊が、地域の防災訓練で参加した住民に、防災に関心を持ってもらえるように、防災啓発体験をしながら学ぶ。
達成目標	中学生防災隊が災害が発生したときに役立つ防災グッズの作り方や脱出・救出に役立つロープワーク、身近にある物で応急手当法など体験し、防災訓練で住民に防災に関心を持ってもらえる活動ができるようになる。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>① 「台車ぶるる」で地震に強い家の啓発体験：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師より、地震への備えの第一は「地震に強い家に住むこと」であり、古い家は耐震補強が必要であることを説明する。 ・地域の防災訓練で啓発する「シナリオを見ながら、台車ぶるるを使い、「地震に強い家」について説明する」体験をする。 <p>② ロープワーク：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師が事前に災害時脱出と救出に必要な結び方に絞り、結び方を展示した後3～5種の結び方を体験する。その中から得意な結び方を選び、防災訓練で住民に教えられるようにマスターする。ロープが手元がないときは、シーツやカーテンを裂き、結び合わせてロープとして使用できることを併せて説明できるよう、被災状況をイメージしながら体験する。 <p>③ 被災時に身近にあるものでしのぐある物で防災クラフト：</p> <p>講師が、被災後の不自由な暮らしを話しながら、身近にある物で凌ぐ方法として、大型ゴミ袋でポンチョや防寒着づくり、新聞紙でスリッパ作り、ゴミ袋と新聞紙で敷物やクッション作りなど作り方を指導した後、体験する。今後「防災体験コーナー」での活</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン

最 終 報 告 書

	<p>動では、実際に役立つかどうかより、「防災に関心を持ってもらう」ことを目的にしていることを理解する。</p> <p>④ 被災現場で身近にある物をつかった応急手当法を体験する 講師が、大災害が発生すると、救急車はすぐ来ない。自分の家族や近隣の人たちの応急手当は自分たちでやらなければならない事から災害現場での応急手当法を広めることの大切を説明しながら、ケガも部位に応じて身近にある物を工夫して応急手当法を示した後、手当てする側とされる側を交代しながら体験する。</p> <p>⑤ 被災現場で、けが人の搬送法を体験する。 講師が、けが人のそばに、一人である、二人、三人以上いる時、大勢いる時など、その場の人数に応じた搬送法を展示した後、組になり体験する。</p> <p>●根崎町・城ヶ入町防災隊 第1回集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正副隊長選出、連絡網の確認、 ・ 今後の活動の確認 ・ 8月28日（土）安城市総合防災訓練参加者募集 <p>●スタッフの振り返りタイム</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付名：名簿、結成式の欠席者に防災隊隊員証、防災パンフ他 ・ 台車ぶるるで地震に強い家：台車ぶるる。耐震啓発シナリオ ・ ロープワーク；ロープ、ロープワーク台、テキスト ・ 防災クラフト：新聞紙、大型ゴミ袋、粘着テープ、ハサミほか ・ 身近にある物で応急手当法：三角巾、風呂敷、日本手ぬぐい、レジ袋、ストッキング、ラップ、
<p>参加人数</p>	<p>中学生防災隊 12 人 スタッフ 15 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>経費総額：26,596 円 会場費：3,040 円 講師謝礼金：安城暮らしと耐震協会会長：10,000 円 名札他雑費：13,556 円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの啓発メニューにも関心を持ち積極的に体験した。 ・ 台車ぶるるを使って地震に強い家の説明では、最初シナリオどおりの説明だったが、内容を理解するにつれて、自分の言葉で説明するなど、積極的な啓発体験ができた。 ・ ロープワークでは、2階にいるとき地震でつぶれた家からの脱出をイメージしてロープワークを覚えることができた。互いに指導するときの言葉をかけ合うなど、工夫している姿が見られた。 ・ ある物でグッズづくり、ポンチョ・防寒着づくり、新聞紙のスリッパづくりでは、自分たちも楽しんで啓発できるところから、時間が短いときの教え方と時間があるときの教え方など自分た

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

ちで工夫し合うことができた。このコーナーでは、実用的かどうかより、「防災に関心を持ってもらうことを目的としている」ことを理解しながら啓発できるようになった。

- ・ 身近にある物で応急手当法では、災害現場でのけが人の応急手当法に重点を置いて体験した。ラップ・ストッキング・日本手ぬぐいの活用は、大変関心が高く、けが人と手当てする人を交代しながら、積極的に体験し、家族にも教えてあげるなどの声も聞かれた。ストッキング活用など自分たちが工夫することもできた。
- ・ 搬送法は、さまざまな場面をイメージして、一人搬送法・二人いたときの搬送法、複数いたときの対応。毛布一枚を使って、その場にいる人数による搬送法を体験できた。被災現場をイメージして、身近にあるもので搬送できる事を知った。
地元防災訓練では、参加した住民に自信をもって指導できると確信できた。
指導者は、中学生防災隊を「楽しく体験しながら、防災訓練で自分たちが教える側になるのだ」という気にさせる努力が出来た。

【課題】

榎前会場・南部公民館会場共通課題

- ・ 体験のしはじめは、遊び感覚であるため、どこからどう目的に沿った体験ができるよう仕向けるか？指導者の悩みである。
- ・ 短時間に防災体験講座の目的を理解してもらい、実際に防災訓練で、参加した住民に啓発できる目的に合わせようとする、楽しさから離れ、関心を持たなくなりそうで、指導者は、終始緊張の連続。今後は事前に行う「指導者講習」の中身と時間を再検討する必要がある。



ごみ袋でポンチョ



台車ぶるで地震に強い家と耐震改修について説明する

成果物

防災体験講座のテキスト（今後見直しをして充実させる）

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑪】

タイトル	中学生防災隊活動デビューin「安城市総合防災訓練」
実施月日（曜日）	平成22年8月28日（土）
実施場所	安城市立篠目中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：中学生防災対プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間（9：00～12：00）
プログラムのカテゴリ、形式	防災訓練
活動目的	その他 防災体験講座で学んだ知識を技を活かして、総合防災訓練会場で「中学生防災隊防災体験コーナー」で防災啓発を行う。
達成目標	総合防災訓練会場で、防災グッズづくりを体験してもらい、防災に関心を持ってもらう。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーナーの設置場所：安城市総合防災訓練会場の篠目中体育館、中学生防災体験コーナー（安城防災ネットと共同ブース） ・ 啓発メニュー：ごみ袋でポンチョと防寒着づくりコーナー 新聞紙でスリッパづくりコーナー 新聞紙とごみ袋で敷物とクッションづくり 活動の目的：参加者に防災に関心を持ってもらう。 ・ 中学生防災隊は、中学生防災体験コーナーを設営し、自分が担当するメニューを選び、材料を使いやすいように仕分けするなど来場者の受け入れ準備をする。 ・ 参加者に呼びかけて、被災時に身近にある物を活用し、しのぐ工夫を体験してもらうことで防災に関心を持ってもらう。 ・ 参加者への教え方や「ことばかけ」など工夫する。 ・ この会場での経験を地元の自主防災会での活動に活かす。 ◆ 地元ケーブルテレビ株式会社キャッチネットワークが取材。 当日のニュース。月曜日～日曜日毎日6回週間ニュース放送。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生防災隊ベスト・名札・ ・ 新聞紙・ごみ袋・粘着テープ・はさみ・油性ペン・ポンチョの作り方パネル。新聞紙スリッパの作り方パネル。
参加人数	中学生防災隊12人 安城防災ネットサポーター4人

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

経費の総額・内訳概要

成果と課題

【成果】

- ・参加者は、安城市内各地区の自主防災会役員、防災関係者、学区一般住民の参加者で、中学生防災隊防災体験コーナーでは、少し多めに用意した材料がすぐなくなるほどの大盛況であった。
 - ・体験した市民や防災関係者から「なるほど これは役立つね～」とか「わかりやすく教えてくれてありがとう！」「中学生ががんばってくれてうれしいよ」など感謝されたことで、「やってよかった」と達成感と自信を持てた。また、市長が巡視の際、ポンチョやスリッパづくりを体験してもらったことで、中学生防災隊の活動を評価し、隊員は直接励ましの言葉をかけてもらうなど励みになった。
- 併せて、市長が総合防災訓練で、直接中学生防災隊の活躍を目にしたことで、次年度以降は安城市としても「中学生防災隊育成事業」を支援すると約束してもらえるきっかけとなった、大きな成果。

【課題】

- ・中学生は、受験勉強や、部活動など土日の日程が詰まっている中で、市内で行われる土日のイベントに参加できる生徒が少ない。
- ・今回、総合防災訓練会場への往復は、各自主防災会役員が防災訓練に参加することもあり、それぞれの町の中学生防災隊の送迎を担当してくれたが、今後会場が遠い場合の交通手段をどうするか？交通安全の面からの課題である。

市長もポンチョ作りを体験



中学生防災隊体験コーナーは大盛況！

成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑫】

タイトル	安城市福祉まつり 「イザというとき 知っ得！なっ得！防災コーナー」開設
実施月日（曜日）	10月3日（日）
実施場所	安城市総合福祉センター及び安城市社会福祉会館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：安城防災ネットボランティア連協常任委員 中学生防災隊プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	8：30～16：30
プログラムのカテゴリ、形式	イベント
活動目的	その他 福祉まつり会場で《中学生防災隊の イザ!という時 知っ得！なっ得！コーナー》を開設し、市民に防災に関心を持ってもらう。
達成目標	市民が被災することをイメージし、災害への備えの必要性を知り、また、被災後身近にある物で工夫してしのぐ方法を体験してもらう。参加した市民に防災に関心を持ってもらう。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	中学生防災隊は、安城防災ネットと共同ブースで活動する。 ① 8：30 集合し、会場の設営をする。 ② 当日「防災体験コーナー」での活動を希望して参加した「中学生ボランティア」にポンチョと防寒着、新聞紙のスリッパの作り方を教える。 ③ 来場した市民に、中学生ボランティアと一緒にポンチョ・防寒着・スリッパ作りなどを教える。 ④ クイズラリー（防災に関するクイズ）のお助けマンを担当する ⑤ 安城防災ネットから、家具固定のミニモデルセットを使った家具固定や扉対策、ガラス飛散防止対策の教え方の指導を受ける。 ⑥ 来場した市民に家具固定ミニモデルセットを使って、家具固定の重要性、食器戸棚の扉対策やガラスの飛散防止対策を説明。 ⑦ 当日参加の「中学生ボランティア」に、ロープワークを教える ⑧ 来場した市民に中学生ボランティアと一緒にロープワークを教える。 ⑨ 交代で、休憩を兼ねて、ほかの福祉コーナーを見学・体験する。 ⑩ 全員で片づける。ボランティアセンターに活動報告をして解散

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ ん

最 終 報 告 書

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	新聞紙・ゴミ袋・粘着テープ・はさみ・油性ペン・ロープ ロープワークテキスト・ある物クラフトのテキスト 防災パンフレット、家具固定ミニモデルセット、
参加人数	中学生防災隊 2人 中学生ボランティア 7人 安城防災ネット 4人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉まつりの入場者に防災体験をしてもらい、関心を持ってもらうことができた。 ・ 福祉まつりの会場ボランティアに応募して、防災コーナーでの活動を希望した中学生ボランティアは、1年生2人、2年生4人3年生1人の7人で、特に2年生で同じ学校の2人は、総合防災訓練でベストを着用して活躍している姿を見て、中学生防災隊にあこがれて、防災コーナーを希望したとのことで、次年度中学生防災隊への入隊を希望している。 ・ 軽い自閉症の3年生男子が防災コーナーを希望してボランティア参加した。ロープワークの本結びをマスターし、来場者には、午前午後を通して、本結びを専門に教えることができた。一度手順を覚えるときちんと教えることができる。他の中学生は彼の障害を理解し、共に楽しく活動することができて、その人の特徴を理解し共に活動できることを知った。 ・ 中学生防災隊は、防災体験講座で学んだことを、中学生に教えたり、一緒に教え方を工夫するなど、意欲的に取り組んでいた。中学生ボランティアに教えて、「同じ中学生なのに、いろいろ知っていてすごいね」と言われ、気分をよくなり自信にも繋がった。 <p>【課題】</p> <p>防災に関心を持ち、中学生防災隊に入る生徒は、部活動や、ほかの活動にも積極的に関わっているために、参加者が少ない。</p> <div data-bbox="539 1330 1393 1839"> </div>
成果物	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑬】

タイトル	根崎町自主防災会 第2回防災会議 (防災訓練準備会議)
実施月日 (曜日)	平成22年10月11日(月)
実施場所	根崎町公民館 和室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：深津 正男 所属・役職等：根崎町自主防災会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間 (10:00～12:00)
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 中学生防災隊は、地域の防災訓練準備会議に出席し、防災訓練に参加した住民が防災に関心を持ってくれるような、防災体験コーナーの開設を提案する。 地域の自主防災会役員と当日の訓練スタッフは、中学生防災隊の地域活動でデビューを支援できるよう話し合う。中学生防災隊が活動しやすい環境作りをどうするか？話し合う。
達成目標	中学生防災隊体験コーナーを開設し、防災訓練の参加者にさまざまな体験を通して防災に関心を持ってもらう。準備会で、当日のスタッフが顔を合わせ交流することで、信頼関係を築き、効果的な防災訓練を行う。
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	<ol style="list-style-type: none"> ① 根崎町自主防災会会長は、自主防災会役員と中学生防災隊に防災会議の案内状を、根崎町中学生防災隊隊長と副隊長、城ヶ入町中学生防災隊隊長と副隊長郵送する。 ② 根崎町防災訓練について例年の状況を知らせ、今年度の防災訓練の内容を検討する。 ③ 今年度は中学生防災隊が自主防災会の一員として、防災体験コーナーを開設することを提案する。目的は防災訓練に参加した地域住民が防災体験コーナーで体験することによって防災に関心を持ち、地域防災力向上につながる。 ④ 防災体験コーナーの内容を説明する。 ⑤ 防災訓練参加の対象者と参加者が防災訓練で何をやるかを検討し訓練の手順を決める ⑥ 会議終了後は、防災訓練で、親しみを持って共に活動できる環境作りの一環として、自主防災会役員と中学生防災隊が昼食を共

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>にし、交流を図る。</p> <p>⑦ 次回の防災訓練準備会までの役割分担について説明があり、中学生防災隊は、自主防災会役員の集合時間に合わせて集合し、防災訓練会場の設営から始めるなどの通達と事務連絡。</p> <p>◆地元ケーブルテレビ碧海幡豆キャッチネットワークが、中学生防災隊の活動を収録した。</p> <p>当日のニュース。日曜日～日曜日まで毎日6回週間ニュース放送</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>中学生防災隊＝防災会議に出席する。</p> <p>根崎町自主防災会＝防災会議資料(平成22年度根崎町防災訓練案など)・交流会の昼食</p> <p>防災会議出席者</p> <p>根崎町自主防災会役員、根崎町中学生防災隊隊長・副隊長 城ヶ入町中学生防災隊隊長・副隊長 安城防災ネット2人</p>
<p>参加人数</p>	<p>30人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>自主防災会の一員として、防災会議に出席し、中学生防災隊が、地域の防災力として期待されている実感を持つことが出来た。</p> <p>自主防災会の役員さんたちから話しかけられて、自分たちがどこの家の子であるかなど知っている人が多いことがわかり、地域で見守られて育っていることを知り、地域のために活動する意義を感じることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>中学生防災隊は、今まで経験のない大人社会の町内会役員会に出席し、自分たち中学生防災隊が、注目の的になったことで緊張した。</p> <div data-bbox="552 1458 719 1845" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>根崎町防災会議に出席し 防災訓練で防災体験コーナ ーの開設を提案しました</p> </div> 
<p>成果物</p>	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑭】

タイトル	町内運動会で「防災ゲーム」
実施月日（曜日）	10月17日（日）
実施場所	榎前町「ひまわり運動ひろば」
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：間瀬トシ子 所属・役職等：中学生防災対プロジェクトチーム事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	8：00～12：30
プログラムのカテゴリ、形式	イベント
活動目的	その他 町内運動会のプログラムに、「防災」に関するゲームを加え、運動会の参加者に「防災」に関心を持ってもらう
達成目標	町内運動会で、楽しく防災体験をすることで、防災に関心を持ってもらう。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会実行委員会の準備会合で、西中PTAを通して、「中学生防災隊の紹介と併せて、毎年恒例の「一輪車リレー」を「災害時支援物資運搬リレー」とプログラム名を変えて、防災メニューにする」ことを提案し採択された。自主防災会役員が、準備を引き受けた。（中学生防災隊正副隊長と連絡係が提案した） ・ 8時に集合し、町内会役員（自主防災会役員兼務）や町内各種団体と一緒に会場設営。（防災の基本＝顔の見える関係作り） ・ 災害時支援物資運搬リレーについて 異年齢混合の組対抗リレーで得点種目 隊長が防災種目の説明をする。 中学生防災隊は、チームごとに支援体制をとって、小学生・女性・高齢者の選手が折り返し点や、引継ぎのなどで支援物資を落としそうな時手助けをする。 ・ YES/NO 防災クイズについて 運動会最後の全員参加ゲーム。賞品と全員に参加賞あり 中学生防災隊はクイズを出す人、解説する人の2人一組で 10問のクイズがある、20問を終えてからも最後の20人になるまでクイズを追加する。15問のクイズがなくなった場合は、防災隊が協議して20人に賞品を渡す。 楽しく防災に関心を持ってもらうことを目的とする。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	必要物資：一輪車 5台・チームカラータスキ 5本 折り返し点ポール・緊急支援物資の張り紙付靱殻入り南京袋 15袋 要員：中学生防災隊 22人+3年生防災リーダー 西中PTA 榎前地区委員（防災隊サポーター）2人
参加人数	27人
経費の総額・内訳概要	

防 災 教 育 ち ゃ れ ン じ ら ン 最 終 報 告 書

成果と課題

【成果】

中学生防災隊が自主的に、運動会の種目に防災をテーマにした競技を加える提案をして、運動会実行委員会が、提案を受け入れ、超多忙な中学生に代わり籾殻袋の準備など手伝って初の取り組みは成功した。地域住民も防災隊のベストを着て活躍する姿を頼もしく見守り、防災に関心を持つことができた。

3年生は、2年前に中学生防災リーダーの養成講座を受講した経験を活かし、1～2年生の防災隊をサポートし、スムーズに競技を進めることができた。

【課題】

中学生防災隊として、町内のイベントで防災啓発活動を取り入れることに関して、良いアイデアをたくさん持っているが提案する機会が少ない。部活動や塾通いなど超多忙な中学生を、自主防災会議や町内イベントの実行委員会会議にどう取り込むか？課題である

町内運動会で 災害時緊急
支援物資運搬リレーを担当



高齢者の選手を
しっかりサポートする

恒例の防災 YES・NO
クイズも中学生防災
隊が担当します。



毎年やってる防災クイズだから、なかなか20人に減らない……

成果物

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑮】

タイトル	南部公民館まつりで防災コーナー開設
実施月日（曜日）	平成 22 年 11 月 14 日（日）
実施場所	南部公民館
担当者または講師	担当者 氏名 間瀬トシ子 役割 中学生防災隊プロジェクト
所要時間または「コマ数×単位時間」	8 時間 8：30～16：30
プログラムのカテゴリ、形式	イベント
活動目的	その他 南部公民館まつりの参加者に防災に関心を持ってもらい、災害への備えにつなげる
達成目標	南部公民館まつりの参加者が防災体験を通して、防災に関心を持ち災害への備えをする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>8：30 集合 防災コーナー開設</p> <p>●中学生防災隊は、まず安城防災ネットから体験メニューの啓発法を復習してもらい、その後「中学生ボランティア」に教えて一緒に来場者に教える。</p> <p>●防災体験メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台車ぶるるで地震に強い家・家具転倒防止対策 ・ロープワーク ・ある物で防災クラフト（ポンチョと防寒着・新聞紙スリッパ） ・新聞のチラシでコップと容器作り（非常食試食に使う） ・お隣さんとの絆を深めるポリ袋で非常食つくり体験と試食 ・防災クイズラリーのスタートとゴール&クイズお助けマン <p>9：00 役割分担と防災体験の教え方を確認</p> <p>10：00 体験コーナーをオープン</p> <p>11：00～13：00 交代で昼食休憩と他のコーナーを体験する。</p> <p>15：30 展示・体験コーナー終了 片付け</p> <p>16：00～ 活動のふりかえり</p> <p>16：30 解散</p> <p>・中学生防災隊は、中学生ボランティアとチームを組み、担当の体験コーナーで来場者に体験してもらう。</p> <p>安城防災ネットは活動をサポートする。</p> <p>・ポリ袋非常食作りは、中学生防災隊 2 人と中学生ボランティア 6 人が、ポリ袋に、米・缶詰などの食材・調味料などを入れて輪ゴムで止めて熱湯に入れて 40 分。ポリ袋から出して来場者に試食してもらう。非常食試食の食器は各自がチラシで作リラップを敷いて使用する。</p> <p>中学生防災隊が作り方と流れを説明する。</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>台車ぶるる・家具固定ミニモデルセット・ごみ袋・新聞紙・チラシ ロープ・ポリ袋非常食用（ポリ袋・輪ゴム・米・缶詰類・調味料） ・ 鍋・調理器具・ラップ・その他 ・ 会場各所にクイズ貼り出し・クイズラリーカード・ゴール賞品 ・ 啓発用テキスト・防災パンフレット・ハサミなど事務用品 ・ 参加者 中学生防災隊 12 人・中学生ボランティア 12 人・安城防災ネット 6 人</p>
<p>参加人数</p>	<p>30 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 公民館まつりに参加した小学生から高齢者までの異年齢の人たちに防災について説明し体験してもらうことができた。小学生はベストを着てやさしく教えてくれる中学生防災隊を憧れの気持ちを持ち、中学生になったら防災隊に入りたいという声があった。中学生は来場した市民や、安城市の公民館関係者・地域の役職者に感謝の声をかけてもらい、遣り甲斐と地元の防災訓練での活動に自信を持てるようになった。</p> <p>◆地元ケーブルテレビ碧海幡豆キャッチネットワークのテレビ収録 当日のニュース。月曜日～日曜日の毎日 6 回週間ニュース放送</p> <p>◆中学生防災隊の 8 月から 11 月の活動を、地域ケーブルテレビ碧海幡豆キャッチネットワークのテレビ番組【クローズアップ碧海中学生防災隊プロジェクトの活動】というタイトルで、11 月 21 日（日）～11 月 28 日（日）の毎日 4 回放送。地域の話題になった。 注：碧海地区とは、安城市・刈谷市・知立市・高浜市・碧南市 5 市広域連合の通称。</p> <p>【課題】 サポートスタッフが足りず、記録写真の撮影が出来なかった。活動中の写真の一部は、南部公民館職員から提供してもらった。今後、活動記録担当者の確保が必要。</p>
<p>成果物</p>	<div data-bbox="531 1339 1348 1892">  <p>オープン前に新聞チラシで コップ作りの見本を用意する</p>  <p>防災クイズラリーのゴール 答えあわせと、解説を担当 ここでは防災知識と 教える力が必要だ！</p> </div>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑬】

タイトル	根崎町自主防災会 第3回防災会議 (防災訓練直前準備会議)
実施月日 (曜日)	平成22年11月27日 (土)
実施場所	根崎町公民館 和室
担当者または講師	担当者または講師 担当者 氏名 深津 正男 役割 根崎町自主防災会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間 (10:00～12:00)
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	その他 12月5日開催の根崎町防災訓練について準備会議
達成目標	根崎町防災訓練で、初めて中学生防災隊を受け入れた防災訓練により防災啓発効果をあげ、地域防災力向上につなげる
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月5日開催の防災訓練最終確認資料 会場レイアウト・集合時間・訓練内容の確認・役割分担の確認 訓練の流れを確認する ・ 中学生防災隊 防災体験コーナーの自主防災会役員の担当者確認と、体験コーナーの進め方について打ち合わせる。 ・ 新聞紙のスリッパ作り体験コーナーと、ガラス飛散箇所の歩行体験コーナー (バラスを敷く) との流れを確認する。 りコーナーに戻り、スリッパを作って、スリッパを履いた体験をする。流れの確認と言葉かけについて打ち合わせる。 ・ 防災訓練炊き出し班が事前練習をした非常食を試食し、感想を伝える。(昼食を兼ねる) ・ キャッチネットワークで放送された DVD「クローズアップ碧海 中学生防災隊プロジェクト」をみんなで観る。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	防災会議資料 炊き出し班が練習した非常食 (昼食) ・ お茶 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災会議出席者。 自主防災会役員・根崎町女性会・安城市消防団根崎分団 中学生防災隊・安城防災ネット
参加人数	35人

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

経費の総額・内訳概要

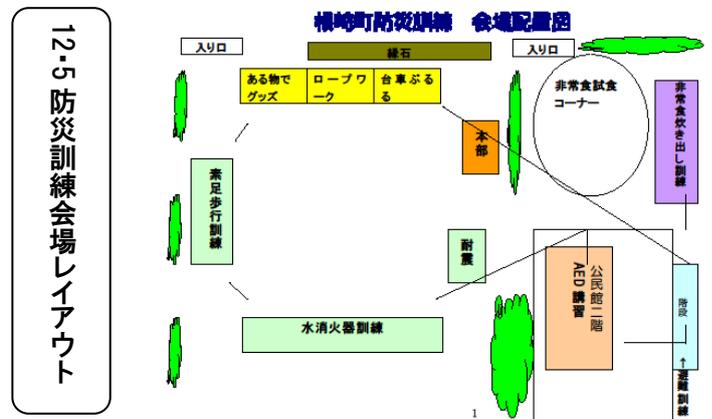
成果と課題

【成果】

根崎町自主防災会役員が、防災訓練で中学生防災隊がのびのびと楽しく活動できる環境作りに努力していることが、根崎町中学生防災隊正副隊長と城ヶ入町中学生防災隊正副隊長にしっかり伝わり、先回の防災会議の緊張した姿と違い、リラックスして積極的に発言していた。自主防災会役員も親しく話しかけるなどいい雰囲気での交流できた。

【課題】

安城市消防団根崎分団が所要で早退したため、防災訓練前の交流が出来なかった。防災訓練の会場では、お互いに役割がある中で、どのように交流の機会を作るか？



中学生防災隊の活動を根崎町住民に紹介！
 “根崎町自主防災会が中学生防災隊を受け入れる環境作り”

2010/11/7 根崎町文化祭



成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑰】

タイトル	根崎町防災訓練で活動（自主防災会の一員として）
実施月日（曜日）	平成 22 年 12 月 5 日（日）
実施場所	根崎町公民館 根崎町運動ひろば
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：深津 正男 所属・役職等：根崎町自主防災会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	5 時間 30 分＝準備 1 時間・防災訓練本番 3 時間 非常食試食 30 分 会場片付け作業 1 時間 (8:00～13:30) スタッフ振り返り 1 時間 (13:30～14:30)
プログラムのカテゴリ、形式	16 防災訓練
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>8:00 訓練会場集合し、会場の設営。防災啓発資器材の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生防災隊防災コーナーミーティング ・中学生防災隊担当の自主防災会役員と隊員の顔合わせ <p>① 台車ぶるるを使って地震に強い家を説明。シナリオの確認</p> <p>② ロープワーク。被災時に脱出や救出に必要な結び方を一人 1 種教えられるように確認する。</p> <p>③ ある物で防災クラフト。大型ゴミ袋でポンチョ・防寒着作り このコーナーでは、実用性より、体験によって防災に関心を持ってもらうことを目的に、楽しく！体験してもらう。</p> <p>④ 新聞紙でスリッパ作り。次の体験コースのガラスの飛散場所の歩行体験コーナー（自主防災会運営）と連動させる。 素足歩行の後、新聞紙でスリッパを作り、スリッパを履いて歩行し、枕元セットに、厚底スリッパや靴が必要であることを実感してもらい、枕元セットの備えにつなげる。</p> <p>8:30～それぞれの担当コーナーで啓発の仕方などリハーサルを行う</p> <p>9:00～防災訓練開始。4つの組がローテーションで体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験コーナーでの活動の合間に、消防団から水消火器による初期消火訓練と消防署救急隊による AED 体験講習を交代で受ける。 ・消防団は、初期消火訓練の合間に、防災クラフト体験コー

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>ナーで、ポンチョ作りやスリッパ作りを体験し、中学生防災隊との交流を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常食炊き出し訓練に参加した中学生防災隊は、婦人防火クラブから最初に指導を受け、訓練に参加した地域住民にハイゼックス炊飯食の作り方を指導する。 <p>11：40～訓練終了。非常食試食コーナーで食事をする。 12：30～訓練会場の片付け 13：00 中学生防災隊解散 13：30～14：30 スタッフのふりかえりタイム</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>耐震コーナー 台車ぶるる＝根崎町自主防災会が防災危機管理課より借り入れ ピノキオぶるる＝ウッドピタ工法協会より借り入れ 地震に強い家の説明シナリオ＝安城・暮らしと耐震協議会</p> <p>ロープワークコーナー ロープ ロープワーク台 ロープの結び方テキスト ロープワーク説明パネル</p> <p>ある物で防災クラフトコーナー 大型ごみ袋・新聞紙・粘着テープ・油性ペン・ハサミほか ある物で防災クラフトのテキスト 作り方説明のパネル</p> <p>展示用 ある物でマイトイレ マイトイレの作り方説明パネル</p> <p>参加者 中学生防災隊 12 人 中学生ボランティア 2 人 安城・暮らしと耐震協議会 1 人 安城防災ネット 6 人（中学生防災隊へのサポーター）</p>
<p>参加人数</p>	<p>防災体験コーナーのみの人数 21 人＋防災隊担当役員 3 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>経費総額：31,000 円 講師謝礼金：安城暮らしと耐震協議会会長：10,000 円 活動サポーター役務費 7 人×3,000 円＝21,000 円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 中学生防災隊は、中学生防災隊プロジェクトの目的である、自主防災会の一員として地域の防災訓練に参加し、防災力向上に務めることが出来た。明祥中学区の中学生防災隊が全員参加し、目的を達成できた。併せて活動の目的を理解し、今まで防災体験講座で学び、総合防災訓練や南部公民館まつりの防災体験コーナーで経験を積み、自信を持って活動することができた。地域の人たちから、感謝の言葉や激励の言葉を頂いたことで、やり甲斐と大きな自信を得ることができた。 中学生防災隊と年齢が近い消防団根崎分団が初期消火訓練・防災クラフト体験でお互いに教えあうなど親しく交流できた。 自主防災会は、中学生防災隊の受け入れ環境作りに務め、防災訓練で楽しくのびのびと活動している姿を確認できた。中学生の活動の姿を見て、今まで関心のなかった防災に関心を持つ人が増えた、「次</p>

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ら ん 最 終 報 告 書

年度以降も中学生防災隊の受け入れに自信が持てるようになった。

【課題】

次年度以降は、地元自主防災会主体で、中学生防災隊を受け入れて、共に活動するプログラムに取り組むことになる。自主防災会が自力で中学生防災隊を受け入れる指導力が必要である。

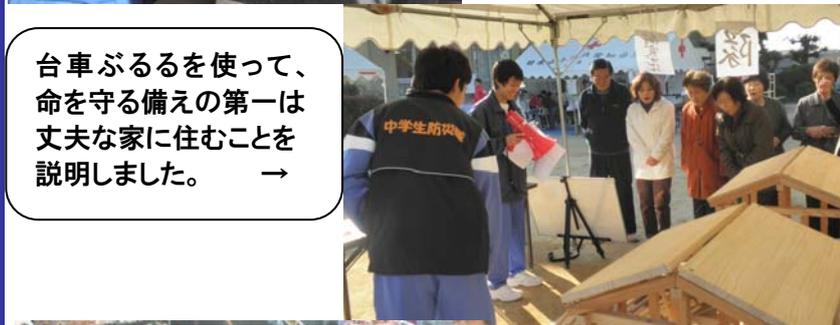
安城防災ネットは、会員それぞれの個人的都合もあり、活動できる会員は、限られているため、防災隊への支援サポーターが不足する。次年度以降、中学生防災隊を受け入れる自主防災会が増えたとき、サポート体制が取れるかどうか？不安がある。会員を増やし、指導者養成を急ぐ必要がある。

消防団から初期消火を教えてもらいましたので、代わりにポンチョを教えました。↓



↑ 自主防役員さんとも仲良く活動しました。

台車ぶるるを使って、命を守る備えの第一は丈夫な家に住むことを説明しました。 →



← ロープワークコーナー体験講座で教えてもらってから、南部公民館まつりで教えたので、今日の教え方は、100点！

成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑱】

タイトル	城ヶ入防災訓練で活動（自主防災会の一員として）
実施月日（曜日）	平成22年12月12日（日）
実施場所	城ヶ入町地内 城ヶ入町運動ひろば
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岩崎 隆雄 所属・役職等：城ヶ入町自主防災会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間 (8:30～12:30)
プログラムのカテゴリ、形式	16 防災訓練
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>8:30 避難訓練開始（各自 班指定の場所に集合する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の安否確認をする ・災害時要援護者を車椅子で避難誘導する。 <p>（車椅子の取り扱いについて、明祥地区社協職員より指導を受ける）</p> <p>9:30 城ヶ入町一時避難場所の「運動ひろば」に避難終了</p> <p>9:30～11:00 防災体験 初期消火訓練・けが人の救出救護訓練 煙道体験</p> <p>11:00～非常食試食タイム</p> <p>12:00～12:30 会場片付け 解散</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学生防災隊4人は、消防団城ヶ入分団が指導する、救出救護訓練、水消火器による初期消火訓練、煙道体験に参加する。 ●会場の片づけを手伝う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>消防団城ヶ入分団が準備。</p> <p>防災危機管理課が活動記録写真提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学生防災隊プロジェクトの参加者 城ヶ入町中学生防災隊4人 安城防災ネット1人（会長のみ）
参加人数	中学生防災隊4人＋サポーター1人
経費の総額・内訳概要	

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ ら ん 最 終 報 告 書

成果と課題

【成果】

中学生防災隊は、中学生防災隊プロジェクトの目的である、自主防災会の一員として地域の防災訓練に参加し、防災力向上に務めることが出来た。城ヶ入町の中学生防災隊4人全員参加し、目的を達成できた。今まで防災体験講座で学び、総合防災訓練や南部公民館まつりの防災体験コーナーで経験を積み、自信を持って活動することができた。地域の人たちから、感謝の言葉や激励の言葉を頂いたことで、やり甲斐と大きな自信を得ることができた。

中学生防災隊と年齢が近い消防団城ヶ入分団から、初期消火訓練・けが人の救出救護訓練を受けた。城ヶ入町防災訓練を企画運営担当した消防団城ヶ入分団は、中学生防災隊が楽しくのびのびと活動できるよう配慮し、中学生防災隊は楽しく積極的に活動できた。

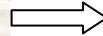
【課題】

次年度以降は、地元自主防災会主体で、中学生防災隊を受け入れることになるが、自主防災会会長交代の年であり、継続して募集することが出来るか？安城防災ネットの十分な支援が必要。

→ 防災危機管理課消防担当
者から、応急担架の作り
方の指導を受けました。
ケガ人役になることで、搬
送される側の気持ちが分か
ります。



明祥地区社協から車椅子補助の指導を受ける → 参加者に指導する



成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン

最 終 報 告 書

【実践プログラム⑱】

タイトル	榎前町防災訓練で活動（自主防災会の一員として）
実施月日（曜日）	平成22年12月12日（日）
実施場所	榎前町地内 榎前町地内 重点地区【井杭山組】
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：加藤 辰雄 所属・役職等：榎前町自主防災会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間 (8:00～13:00) スタッフふりかえり：13:00～14:30
プログラムのカテゴリ、形式	16 防災訓練
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域住民が防災に関心を持ち、災害に備える。防災訓練に参加するし、発災時をイメージして、中学生防防災隊が出来る活動を知る、イザというときの心構えを養う。地域の防災力向上につながる。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	8:00 集合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災体験コーナー設営 ・ 中学生防災隊とサポーターミーティング ・ 訓練内容ごとに自主防災会各部長の指揮下に入る ① 安否確認・避難誘導：（要援護者を車椅子で一時避難所に誘導） 避難誘導部長の指揮下で活動（車椅子介助 2箇所） ③ ・ 情報伝達訓練：西部地区指定避難所西部公民館・西部福祉避難所・指定避難所安城西中学校に被災情報伝達と支援物資の要請書） <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集訓練：情報伝達訓練の往復に被災状況の把握と情報の収集訓練（実際は、危険箇所を確認し「通学路の防災マップ」に落とす） ④ ケガ人の救出救護訓練： <ul style="list-style-type: none"> ・ 救出訓練＝なまずくんを使ってジャッキアップで救出する ・ 災害現場での応急手当法＝ふろしき・日本手ぬぐい・ラップなど身近にある物で応急手当をする。 ・ 搬送訓練（毛布と棒で応急担架、防災倉庫の担架、二人が肩を組んで搬送する。一人が肩を貸して歩行補助する） ・ 救護所では、けが人の受付票に記入する。支援係りに引き渡して救護訓練を終了する。 ⑤ 一時避難所（テント）開設・運営訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 布やダンボールを使って寝たきり要援護者の居場所作り体験 ・ 避難者の受付・避難者情報の掲示（広報）・避難者支援 ⑥ ケガ人と病人の救護所（テント）開設と運営訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ ケガ人と病人の受付・ケガ人と病人の情報掲示（広報）、

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガ人と病人の介助訓練 ⑦ 初期消火訓練 消防団榎前分団より水消火器を使って初期消火訓練を受ける。 消防団との交流を図る ⑧ 非常食炊き出し訓練（ハイゼックス炊飯食と豚汁） （この訓練だけ中学生防災隊の訓練参加なし） ⑨ 中学生防災隊の防災体験コーナー開設 （中学生防災隊は、発災型訓練の各担当を終えた後、直ちに体験コーナーで活動する） 目的＝楽しく体験することで、防災に関心を持ってもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台車ぶるるとピノキオぶるるで地震に強い家コーナー 筋交いの有り無しで地震に強い家について説明する。 シナリオを見ながら耐震改修の必要性を説明する。 ・ 災害時の脱出救出に役立つロープワークコーナー ロープが手元がないときは、カーテンやシーツを裂いて結び合わせてロープ代わりに使えるなど知らせる。 ・ 身近にある物で防災クラフトコーナー ごみ袋でポンチョと防寒着、新聞紙とごみ袋で敷物やクッションを作りを体験してもらう ⑩ 非常食試食タイム ⑪ 訓練参加者全員のアンケート記入タイム（記念品と引き換え） ⑫ 自主防災会会長の講評 ⑬ 中学生防災隊防災体験コーナーの片付け ⑭ 中学生防災隊防災訓練終了のあいさつ 榎前町自主防災会会長・安城防災ネット会長・防災危機管理課 ⑮ 防災訓練参加賞を受け取って解散
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>中学生防災隊・中学生ボランティア参加者名簿・腕章・参加賞 中学生防災隊プロジェクトアンケート用紙・アンケート参加賞</p> <p>●中学生防災隊防災体験コーナー資器材 ・台車ぶるる（防災危機管理課より借用）・ピノキオぶるる（ウッドピタ工法協会より借用）・ロープ・ごみ袋・新聞紙・ハサミ・油性ペン・粘着テープ他事務用品</p> <p>●中学生防災隊防災訓練参加者とサポーター 中学生防災隊 21人 中学生ボランティア5人 安城西中学校PTA 榎前地区役員（サポーター）8人 安城防災ネット4人 安城・暮らしと耐震協議会1人</p>
<p>参加人数</p>	<p>中学生防災隊と中学生ボランティア訓練参加者とサポーター37人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>経費総額：38,600円 内訳 中学生防災隊サポーター役務費：15,000円 講師謝礼金 10,000円 アンケート引き換え景品代：12,000円 掲示用A-1パネル制作費：400円×4枚＝1,600円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】中学生防災隊は、自主防災会の一員として、発災型訓練に参加し、災害時をイメージして訓練に参加できた。初めての訓練参加で、緊張感を持って真剣に参加した。また今まで防災体験講座で学び、総合防災訓練や安城市福祉まつりの防災体験コーナー、町内運動会で防災啓発体験を積み、自信を持って活動することができた。中学生が防災訓練に参加したことで、住民にも防災に関心を持ってもらうことができた。訓練に参加した住民から、感謝の言葉や激励</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

の言葉を頂いたことで、やり甲斐と大きな自信を得ることができた。中学生防災隊と年齢が近い消防団榎前分団から、初期消火訓練を受けながら交流を図り、顔の見える関係ができた。

榎前町自主防災会は、中学生防災隊が楽しくのびのびと活動できるよう配慮し、中学生防災隊はのびのびと楽しみながら訓練に参加できた。

【課題】今年度の自主防災会役員は、中学生を取り込んだ防災訓練は初めてであったことと、中学生防災隊が、担当部署の指揮下に入っている本格的な活動は初めての経験で、指揮者側も中学生側も当初混乱した。しかし、3年生が情報伝達訓練・避難所運営訓練に参加した経験があり、早い段階で公民館協力員（役員OB会）と共に訓練を誘導できた。発災型訓練とはいえ、大人だけの訓練とは違うため、事前うちあわせが必要不可欠である。

中学生と自主防災会役員の日程調整が難しく、榎前町防災会議に中学生防災隊は出席出来なかった。そのため全体の打ち合わせが不十分であった。今後は、正副隊長と連絡係りだけでも参加して事前打ち合わせを十分に行う必要がある。



←毛布だけで搬送するときは大勢の人手が必要。堅く巻き込んで搬送する。

リーダーは、病人を元気付け安定した搬送を指揮する→



← 一時救護所の受付風景
ケガ人情報の掲示も担当する



受付を終えたら、救護所に運ぶ。
床敷きはダンボールを使用 →



成果物

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点

最大の難関は「中学生防災隊募集」と「中学生との付き合い方」

- ①22年1～3月 中学生防災隊の募集について中学校に相談
- ・ 保護者の理解が必要 → 学校が「親子防災講演会」を提案
「親子防災講演会」開催予定→6月14日（月）部活動参観日に合わせる
 - ・ 平成22年度、新年度スタート → 職員の異動により、今まで協力いただいた職員2人が交替。協力関係がトーンダウンした。
- ② 悲惨な出来事発生：親子防災講演会開催日の前日未明、3年女子生徒の家が火事になり、父親と妹が死亡。女子生徒と弟がやけどで入院した。
- ・ 生徒・保護者学校関係者が大きな衝撃を受けた。講演会開催後、「大災害が発生すれば、この何倍かの悲惨な状態になることを実感できた。」と保護者からの声もあり、予定通り開催できてよかったと安堵した。
- ③講演会后に中学生防災隊募集のチラシを配布
- ・ 中学生は、ショックが尾を引いており、友達と中学生防災隊応募について楽しく語り合う雰囲気ではなかった。
 - ・ 応募者 わずか3人
- ③ 中学生防災隊の応募者がいなければこのプロジェクトは成り立たない！
- ・ ここで募集を見直し再募集した。
明祥学区での募集地域を絞る。
募集チラシを作り直すとき工夫したこと
「この活動は楽しく、内容は自分と家族に役立つ」
「夏休みの自由研究にお勧めのテーマである」ことをアピール
 - ・ 自主防災会が努力したこと
町内会の回覧板を活用し、募集チラシを回覧する。町内各種団体役員が口コミで中学生のいる家庭に声をかける。
- ④ 平成22年6月 応募者数 明祥学区12人
- ⑤ 中学生防災隊 再々募集
- ・ 隣接した学区の榎前町内会も募集対象地区とする。
安城西中学校の学内地域集会上に榎前町自主防災会会長と事務局が出向き。活動の目的を説明し、募集チラシを配布
 - ・ 安城西中 PTA 榎前地区役員が協力 → 応募者の取りまとめと名簿作成
 - ・ 榎前町中学生防災隊の応募者 1年生17人 2年生7人 合計24人
- ⑦ いまどきの中学生気質に惑わされ対応に悩む
- ・ 応募した生徒から、後から申し込む予定の友人が申し込まないと言われたからキャンセルしたいと申し出。友達の影響を受けやすい。中学生の特徴を理解し、対応策を検討する勉強会が必要とわかる。
- ⑧ 中学生との付き合い方のコツを探る。
- ・ 安城防災ネットは、中学生の特徴（特に長所）を拾い出し、付き合い方について

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>て話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生との付き合いについて、苦手意識をなくすために、顔の見える関係作りに努める。体験講座では真剣に対峙し、信頼を得られるように努める。 <p>⑨ 中学生防災隊体験講座の指導者研修とワークショップファシリテーターの事前講習会を開き、中学生への指導法を統一し信頼される指導を行う技を習得する。(日ごろの指導法の見直しと再確認)</p> <p>⑩ やっとここで、プランの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初、中学生について無理解のまま立てたプランを見直して作り、各自主防災会に提示。 ・ 日程的に間に合わなかったことは次年度の検討課題とした。 <p>⑪ プランの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災会は、はずかしがりやで、友人に影響されやすく、自分の意見を先に言わないなど、いまだきの中学生と、うまく付き合っ、地元自主防災会の活動に参加してもらえる環境作りが出来るか？ ・ 自主防災会に受け入れるための心構えを説明 → 中学生の扱いは学校に合ったのめばよい → 中学校は学校の行事や授業、部活動をこなすことで手一杯であり、外部から持ち込まれる仕事を受け入れるゆとりがない。→ 自主防災会が自分事として取り組む覚悟が必要と理解する。→ 役員会を開催し、防災教育チャレンジプラン「中学生防災隊プロジェクト」についての説明会を開き、徐々に共通理解を得られる。 ・ 中学生防災隊、自主防災会、安城防災ネットが無理をせず、楽しい活動として取り込める内容を検討して、プランを作成しなおし、計画変更届を出す。 <p>◆ 自主防災会役員に、中学生防災隊の目的を理解し、中学生気質を理解し、受け入れる環境作りについて考えてもらうためには、プロジェクトチームのスタッフとして、共同で研修会の機会を持つことが効果的であるが、時間調整が出来ず、別々の勉強会となった。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>工夫した点 → 信頼される努力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動予定と内容の案内文を郵送する。→ 電話で確認する <ol style="list-style-type: none"> ① 中学生防災隊に活動の案内文を送る ② 案内した活動内容や予定日について、理解できたかどうか？確認する。 ③ 塾に行く予定や部活動の予定と重複しないか？確認する。 ④ 中学生防災隊の活動が、健康や・勉学・部活の妨げになっていないか？ 気遣う。保護者が電話に出たら、保護者の関心の度合いが分かる。 ・ 事務局→直接電話で語りかけることで、心のつながり作りが出来る。 ・ 中学生防災隊→活動日程や内容についてわからない部分の問い合わせ。 <p>※ 中学生防災隊からは、活動に不参加の場合、正副隊長に連絡するだけでなく「参加したいけど、都合が悪い。」など、関心はあるのだという意思表示をしてくれるなど、気遣いも感じられ、徐々に心のつながりを実感できた。</p>

防 災 教 育 千 ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

実践に
当たって
苦労した点
工夫した点

明祥中学区の中学生防災隊は「超多忙な受験生！」
安城西中学区の中学生防災隊は「中学生生活のお楽しみ中で超多忙！」
活動は、気のあった友だちと一緒に楽しく！

①受験生への配慮

義務教育最終学年 → 勉強・部活動・友人関係などの集大成の年で超多忙！
防災体験講座・防災体験活動・防災訓練への参加 → 半日で計画する。

②中学 1～2 年生への配慮

・1～2年生 → 体験・活動メニューは簡単な内容でメリハリをつける。
(押さえる部分と自由に楽しく活動できる部分をうまく合わせた内容にする)

③防災体験講座 → 地域性、防災隊の学年に配慮し、会場を分けて開催。

④中学生防災隊の活動参加者の把握 → “友達の影響を受けやすい。” “興味先がコロコロ変わる” “部活動の予定が天気や試合の結果などで変わり、防災隊の活動日に参加できるかを決められない。” などの理由で、防災活動に参加できる人数の把握が直前まで出来ない。

⑤事前に活動内容や役割分担の文書を郵送する → しっかり目を通さない

⑥文書だけの連絡は効果がない ⇔ 文書は内容の確認に有効。

⑦文書郵送＋電話作戦＝参加者数把握・役割分担の希望を確認

⑨ 体験講座や活動は、「気のあった友達とグループ行動」

⑩ 体験や活動内容は、事前にいくつかのメニューを提示し、その中から希望するメニューを選んでもらい、希望者が多かったメニューの順に体験内容を決める

⑪「啓発シナリオ」を活用 → 体験講座の指導法を統一するため

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゃ ら ん

最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	安城市立明祥中学校 → 安城市立安城西中学校 →	<p>・中学生防災隊プロジェクトチームの活動には、中学校の協力が不可欠。中学校にご協力いただくために、事前に訪問し、学校行事に合わせて活動日程の調整や、中学生や保護者への対応などアドバイスを頂いた。</p> <p>中学生防災隊募集に関しては保護者の理解が必要で、保護者が防災に関心を持つ必要があることから、明祥中学校の授業参観日に合わせて「親子防災講演会」の開催を提案いただき、親子防災講演会を開催できた。</p> <p>中学生防災隊のチラシを配布。</p> <p>中学生防災隊結成式への出席激励</p> <p>・毎年恒例の町内会と地域中学生の懇談会で中学生防災隊の募集が出来た。</p>
保護者・ PTAの組織	安城西中学校 PTA 榎前地区	榎前町中学生防災隊への連絡や、防災隊応募者の取りまとめ、結成式までの連絡調整の役を担っていただいた。防災体験講座、町内運動会、防災訓練では、しっかりサポートしていただいた。
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 根崎町内会〔自主防災会・福祉委員会〕女性会、安城市消防団根崎分団 ● 城ヶ入町内会〔自主防災会・福祉委員会〕安城市消防団城ヶ入分団 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生防災隊プロジェクトチームの根崎町自主防災会は、明祥地区町内会のまとめ役として中学生防災隊の受け入れを積極的に働きかけた。消防団は、中学生防災隊と積極的に交流し、防災クラフトを教えてもらうかわりに水消火器による初期消火を丁寧に指導してくれた。 ● 城ヶ入町自主防災会は、中学生防災隊4人を町内の宝として、町内会行事の案内を送るなど、地元で活動しやすい環境作りに務めた。地元消

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>●榎前町内会〔自主防災会・福祉委員会・環境保全会・子ども会・西中PTA・公民館協力員（評議員OB会）ふれあい「えのき」安城市消防団榎前分団</p>	<p>防団は、防災訓練で中学生防災隊をサポート救出救護活動を支援した。</p> <p>●榎前町自主防災会は、組織を上げて中学生防災隊を受け入れて、活動しやすい環境作りに務めた。消防団は、水消火器で初期消火訓練を指導し、楽しく交流し、顔の見える関係ができた。</p> <p>そのほか町内の各種団体は、それぞれの立場で、防災体験講座・町内運動会・防災訓練で中学生防災隊の活動をサポートした。</p>
<p>国・地方公共団体・公共施設</p>	<p>安城市防災危機管理課 →</p> <p>安城市南部公民館 →</p> <p>衣浦東部広域消防局安城消防署 安城西出張所</p> <p>安城市社会福祉協議会 明祥地区社会福祉協議会 西部地区社会福祉協議会</p>	<p>・防災危機管理課は、中学生防災隊プロジェクトチームの活動を理解し、中学校に協力してもらうための理解を得るために学校教育課に出向くなど種々のサポート。最終報告会参加旅費を補助するなどの支援。</p> <p>・南部公民館は、中学生防災隊の集会や講習会会場として活用。南部公民館まつりでは、防災啓発活動の場を提供、クイズラリーのテーマを防災にするなど積極的な協力を得られた。</p> <p>・消防署：普通救命講習会で顔の見える関係になったことにより、災害時に身近にある物で応急手当法のテキスト作りで積極的な協力を頂いた。</p> <p>・安城市社会福祉協議会は、安城市福祉まつり会場で、中学生防災隊防災コーナー「イザ！というとき 知っ得 なっ得コーナー」開設場所を提供。・明祥地区・西部地区社会福祉協議会は、中学生防災隊プロジェクトの活動を理解し、要援護者の避難所運営訓練や車椅子避難のサポート方法など指導、積極的な協力を得ら</p>

防 災 教 育 挑 戦 ジ ャ ン ナ ル

最 終 報 告 書

		れた。災害時要援護者対策の部分で、指導や情報提供の役割を担ってもらえる。強力な連携体制が生まれた。
企業・ 産業関連の組合等	ウッドピタ工法協会	・地震に強い家について、テキストの提供や、起震台体験、ピノキオぶるの貸し出しや指導など積極的な協力を得られた。2町自主防災会主催の防災訓練で連携して活動できた。
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	安城・暮らしと耐震協議会 安城生涯学習まちづくり企画人 ふれあい「えのき」	・大地震への備えの基本は、丈夫な家に住むことである。と中学生防災隊が理解し、地域住民の関心を得られるような方法で、地元防災訓練で説明できる指導を受けた。 ・昭和の語り部を養成し、三河地震や伊勢湾台風の被災体験を語り継ぐ活動で、地元に住んでいる語り部から被災体験を聴くことができた。被災体験を身近にとらえる事が出来た ・榎前町自主防災会主催、ふれあい「えのき」企画運営で6年前から取り組んでいる中学生防災リーダー養成講座の実績を活かして、体験講座では非常食の炊き出しを指導したり、応急手当法の指導補助をするなど積極的な支援を得られた。
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	富士常葉大学大学院 准教授 木村 玲欧 氏	過去にこの地で発生した三河地震の被災体験などの聞き取り調査で、安城市南部地区の住民とも交流があり、地域住民が親しみを感じ、明祥中学校での親子防災講演会の講師をお願いした。中学生防災隊結成式とワークショップのご指導を頂いた。中学生防災隊プロジェクトチームの活動についてアドバイスを頂いた。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>① 中学生防災隊が、積極的に地域の防災力として活動できた。</p> <p>② 自主防災会は、中学生を受け入れて防災訓練を行うことで、防災訓練に参加した住民が、防災に関心を持ち、大災害への備えに繋がる。</p> <p>③ 中学生防災隊プロジェクトの活動を通して、産官学民の連携が出来た。次年度以降「中学生防災隊プロジェクト」の継続に大きな力となる。</p> <p>④ 中学生防災隊が安城市総合防災訓練など、市内イベント会場での活躍で市民が防災に関心を持ち、安城市の防災力アップの一助となる。 併せて積極的な活動が市長に認められ、次年度以降の中学生防災隊養成の活動に対し、安城市より支援の糸口をつまむことが出来る。</p> <p>◆ 防災教育チャレンジプランの活動を進める中で、地域の産・官・学・民との連携ができた。次年度以降継続するための大きな力となり大収穫であった。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>中学生防災隊を育成し地元の自主防災会の一員として活動できるようにするには、受け入れる側の自主防災会が、自分たちで汗を流し、受け入れる努力をする必要がある。</p> <p>地域により自主防災会の組織構成や活動内容、活動意欲に差がある。</p> <p>自主防災会は、自力で中学生防災隊を育成し取り込む活動が出来るか？また継続できるか？ 安城防災ネットは、自主防災会が中学生防災隊を育成し自主防災会の一員として受け入れ、継続できるようサポートできるか？その活動資金は？サポートスタッフの養成など課題は尽きない。</p> <p>しかし、 中学生防災隊の活躍によって、防災教育チャレンジプランの目的は達成できつつある。継続することで達成できると考える。</p> <p>今後も 防災教育チャレンジプランで、プロジェクトチームを組み、共にチャレンジした、根崎町自主防災会と共に、地域の防災力向上に努めたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>次年度は、根崎町・城ヶ入町・榎前町を含む南部地区 6 町を対象に、中学生防災隊を育成し、各自主防災会の一員として受け入れる。</p> <p>活動計画</p> <p>① 4 月～中学生防災隊の募集を開始する 中学生防災隊の募集は各自主防災会が独自で行う。 安城防災ネットが募集チラシ作りなど手伝う。 各町自主防災会で 5 人～20 人 対象学年 1～2 年生</p> <p>④ 5 月中 南部地区中学生親子防災講演会を開催 各地区で防災隊結成式</p> <p>⑤ 和泉町の中学生防災隊は、和泉町防災訓練に参加する</p> <p>⑥ 7 月 中学生防災隊防災体験講座 1 回目</p> <p>⑦ 8 月 中学生防災隊防災体験講座 2 回目</p> <p>⑧ 8 月 安城市総合防災訓練に参加する</p> <p>⑨ 10 月～11 月 安城市福祉祭り・地域祭り会場などで防災コーナーを開設して活動する。町内会イベントで防災啓発活動をする。</p> <p>⑧9 月～12 月 自主防災会主催の防災訓練で活動する。</p> <p>◆中学生防災隊が、自分たちの後継者を育てるために小学校への出前講座が出来るよう働きかけたい。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

● 中学生防災隊になって、考えたことと調べたこと。

榎前町中学生防災隊(1年生女子)

中学生防災隊結成式で、昭和の語り部のみなさんから、三河地震と伊勢湾台風の被災体験を聴き、地震が起きた時、自分たちと同世代だった語り部と、自分たち今の中学生を比べて、今大災害が発生したら、65年前の語り部のみなさんと同じような活動が出来るだろうか？と考えてみた。家族に語り部から聴いた話をしたことがきっかけで、大叔父大叔母からも被災体験を聴き、あの人もこの人もと町内の方からお話を聴くことができた。

夏休み自由研究の歴史部門として、調べたことをまとめたところ、安城市教育委員会主催の「安城歴史のひろば展」で歴史大賞を頂いた。

中学生防災隊に入ったことがきっかけで、防災に関心を持ち、三河地震のことを調べるきっかけが出来てよかった。

これからも、66年前に中学生だった語り部のみなさんのように、家族や地域の役に立てるように、防災活動にも参加したい。



● 平成 22 年度 榎前町後期防災訓練 アンケート集計

実施日 平成 22 年 12 月 12 日(日)9:00～ 井杭山地区内

◆ 中学生防災隊(1年生・2年生)

1、地域の人たちに「防災に関すること」を教えたことについて、どのような感想を持ちましたか？

- ・知ってもらって死傷者が減ってほしい。
- ・一人でも犠牲者をすくなくできたらよいと思った。
- ・普通に使っているものでもいろんなことに使えるんだと思って教えた。
- ・教えた側もいろいろな勉強が出来たのでよかったと思います。
- ・もっと多くの人に広めたいと思いました。
- ・いろんなことを教えることが出来てよかった。
- ・自分もやれるんだな！と思いました。
- ・もっと広めたいと思った。
- ・教える私たちがあまり分からないので、もっと知りたいなあと思いました。
- ・たくさんの人に知ってもらいたいと思ってがんばった。***

・とてもよかったと思ったのと同時に、この行事に来なかった人にも知ってもらいたい。

- ・担架で運ぶのは、けっこうつかれる。地震が起きたらタンカが足りない。
- ・本当に大変で、本当に地震が起きたとき、出来るかどうか不安になった。
- ・ふれあいの大切さを学びました。
- ・町内の人をタンカで運ぶのがつらかった。
- ・けっこう楽しくためになった。
- ・最初たると思ったけど、意外に楽しかった。
- ・みんなに教えるためには、もっと防災の勉強が必要と思った。

2、自主防災会の役員さんの活動に対して、どのような印象・感想を持ちましたか？

- ・すばらしい*****
- ・わかりやすく教えてくれた。
- ・とてもてきぱきと一生懸命働いていた

防災教育チャレンジラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

・いろいろなことを教えてくれたので、すごい。
 ・たくさんの知らないことを教えてもらえて、優しくてよかったです。
 ・わかりやすく楽しく思えた。いろいろ知っててすごいと思った。

・かっこいいなと思った。
 ・とてもがんばっている。*** *
 ・たくさんの方がいろんなことを教えてくれた。
 ・大変そうだなと思った。
 ・布団を運んだりする時、おじさんたちが楽しかった。

3 自分が活動したこと、自主防災会の人と一緒に活動したことについて、よかったことはなんですか？

・真剣に向き合ってくれた。
 ・わかった！と言ってもらえたこと。
 ・ありがとう！といわれてうれしかった。* *
 ・感謝されたコト。
 ・たくさんの方に知ってもらうことで、一人でも人がへるといいな一と思う。
 ・地震の危険が分かったこと。
 ・がんばってるねといってもらえた。
 ・教えたことをちゃんとやってくれたので通じた！
 ・小学生が、真剣にいろいろ質問してくれた。
 ・おばさんたちにえらいジャンといってもらえた。
 ・いろいろ楽しめた
 ・これから防災の対応を考えることが出来るようになった。

4、1・2についてもっと頑張ろう！改善しよう！工夫しようと思ったことはなんですか？

・もっと呼びかける。
 ・もっと地域の人に話す。
 ・もっとくわしく、わかりやすく教えてあげたい。
 ・情報伝達するとき、もう少し早く行けるようになりたいと思います。
 ・自分の言いたいことが伝わったこと。
 ・テキパキと動きたいな☆
 ・はっきり確実に言えるようにする。
 ・もっとわかりやすく伝えられるようにしたい。
 ・てぎわよく。
 ・ためになると喜んでもらえたからよかった。
 ・完璧なのでないです。
 ・もっとしっかりしゃべる。* *
 ・もっとときばきと動く。
 ・何度もいわれなくても自分からやる。
 ・次は非常食作りに参加したい。

6、中学生ボランティアで参加した1年生2年生にお訊ねします。

① 中学生防災隊の活動を見て、感じたことは何ですか？

・自分も頑張ろうと思った。
 ・動きがすごい。
 ・自分と同じ中学生なのにすごいと思った。* *
 ・すごいなあ。とてもがんばっている。

◆班長以上のスタッフ

2、中学生防災隊について、また、彼らの活動について、印象・感想をお聞かせ下さい。

・忙しい中一生懸命役割をやっていて感心しました。* * * * *
 ・今後も続けていくといいと思います。もっと積極的に参加すべき。
 ・訓練に参加してくれるだけでもありがたいのに、みんな頑張っていたと思います。
 ・もうすこし動けるとよかった。
 ・今一歩！
 ・メリハリある行動で見ている大変よかった。
 ・毛布で人が人を運ぶとき、リーダーの役をやる中学生が大人の先頭に立って頑張っていたので涙が出るくらいうれしかった。
 ・指示されたことは、頑張るやるが、自分から進んでやるようになるとよい。
 ・まじめに取り組む姿が見られた。
 ・将来のために役立つ。
 ・まず、よく参加してくれたことに感謝したい。実際起こった場合、平日において活躍できるのは、彼らかもしれない。行動力もあり、機動性においてもさらに有効に動いてもらえるようにしたい。
 ・思春期で、イヤ・ダメと言いながら自分の仕事はやってくれているので、イザというときには、知っていることが多くなると活躍してくれると思う。
 ・その場その場でのリーダーを最初に決めて活動すべきだと思います。
 ・地元の人と協力して、よく役割を果たしていた。
 ・若い人の「力」は大きい。メリハリのある行動を！
 ・耐震の説明が上手・ロープの結び方を子どもが教えてもらって喜んでた。ゴミ袋の雨合羽は便利でいいと思う。教え方がうまかった。
 ・会の方が熱心に中学生に指導してくれて育てられていることが分かった。
 ・中学生への指示がなかったので、時間をもてあましていた生徒もいた。
 ・意外に頼りになる存在だと思った。参加するまでは嫌がるかもしれないが、榎前の子は全員参加できる方向に持っていけるといいと思う。
 ・積極的に関わっていて頼もしいと思いました。
 ・中学生が参加することで、参加した人たちが喜んでた。それだけでも効果大。

※以下この項省略。設問参加者の感想も省略

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

7. 自由記述欄 ③

中学生防災隊プロジェクトチーム「わが故郷は、僕たちの手で守る」の活動は、中学生防災隊を育て、地域の自主防災会の一員として防災訓練に参加し、地域の防災力となる。約10ヶ月間の活動を通して、中学生のすばらしい創造力・想像力を感じ、パワーをもらうことができた。初期の目的は達成できたと思えるが、課題は山積みで、次年度以降、課題の解決に努め、進化させながら、「名実共に災害に強い安城市」をめざしたまちづくり活動を継続させたい。

《根崎町防災訓練の画像》



参加者の受け入れ準備



それぞれの担当ヶ所で
消防団との交流が
出来ました。

《榎前町防災訓練の画像》



体験コーナー



情報伝達班帰着・本部に報告



ウッドピタ工法協会のクイズ



災害時要援護者の非難誘導訓練 救護所のケガ人・病人情報の掲示

